

青年の切実な願いの実現へ、政治の中身をかえるとき——すべての班と同盟員が力をあわせよう

2008年9月23日 民青同盟中央常任委員会

全国の班と同盟員のみなさん。衆議院の解散・総選挙が目前にせまっています。

一人ひとりの願いを大切に、共感・連帯の力を発揮した私たちの活動は、一步一步、社会を動かしてきました。魅力あふれる班活動をつくり、「生きづらさ」をかかえる青年にとつて、大切な居場所をつくってきました。

一枚一枚のアンケートにつづられた切実な実態、模索しつつ連帯をつよく求める青年の思い、おもいきって仲間と語りあつた願いや「生きづらさ」——総選挙は、その一人ひとりの切実な願いを実現する絶好のチャンスです。すべての班と同盟員のみなさんが、願いをかかげ、総選挙にとりくむことを心からよびかけます。

■ひろがる運動、青年との「ひびきあい」——10・5全国青年大集会の歴史的成功で、切実な願いがかかげ、総選挙へ

「仲間がいることを伝えるために、職場の同僚を誘って参加したい」「青年を苦しめ、バラバラにしている『自己責任』論をはねかえす集会にしたい」「『苦しい』気持ちはいらないっしょ。正規と非正規が手を取りあえる集会に」——全国青年大集会をめざして、各地で多彩な運動がおこり、集会への熱い期待、共同と参加の輪が大きくひろがりつつあります。

全国でとりくまれてきている青年との対話と交流のなかで、「毎日仕事が変わるので人間関係も仕事のノウハウもきずけない」「時給630円。暮らせる賃金に」「残業ばかりで体も心もつらい。自分には能力がないのかも…」「バイトが忙しくて勉強できない」——切実な願いが次々に寄せられています。

どこでも青年との対話がはずみ、私たちの運動が財界をおいつめ、政治を動かしてきていることに驚きと共感がひろがっています。『蟹工船』の歴史的ブームがおきているように、青年自身が、ひどい働かせ方に疑問を感じ、「いまの政治や社会に問題があるのでは」と気づきはじめています。「自分はまだまし」という青年とも、ふだんはガマンしている不満や悩み、仕事についての「夢と現実」を語りあうなかで、共感と連帯の輪がひろがっています。

日本共産党市田書記局長の講演を学び、実態や願いの交流を大切に、「草の根の運動」「参加の輪」をひろげにひろげ、あふれる願いを全国からもちより、集会の歴史的成功をみんなの力で実現しましょう。

集会の成功は、青年の切実な願いである「人間らしい働き方のルールの確立」を社会につよくアピールして総選挙の大争点に押し出し、自民党・公明党が進めてきた雇用破壊、異常な大企業中心の政治をおおもとから転換していく確かな力になります。集会にむけての交流と学習、青年との無数の対話、集会に参加してえられる確信と勇気——そのすべてが、願い実現をめざしてたたかう総選挙のとりにくみにつながります。

■総選挙で問われているのは——「生きづらさ」の大きさにある政治の中身をかえる力を国会に

青年の願い、「生きづらさ」は、正規も非正規も、学生も、みんな切実です。総選挙で青年といっしょに考え、知らせたいのは、このおおもとに自民党・公明党の大企業優先、アメリカいいなりの政治があること、この政治の中身をかえる力を国会にきずいてこそ、青年の願い実現への道がひらかれることです。

大企業は、正社員を減らし、派遣や期間工、パートなどモノ扱いの不安定な働き方の青年を増やし、「ワーキングプア」をつくりだすことによつて、史上空前の利益をあげてきました。しかも大企業は、不安定な働き方は「青年自身の能力、意欲の問題」「自己責任」といつて青年を苦しめ、みずからの責任を棚上げしてきました。

不安定な働き方が増え続けているのは、自民党・公明党が、財界がもとめるままに、国の法律で人間らしく働くルールを次々に壊してきたからです。とくに、1999年に労働者派遣法を改定し、派遣という不安定な働き方をあらゆる職種に「原則自由化」した決定的な場面で、これにきっぱり反対したのは日本共産党だけでした。

それから10年、派遣が300万人にもなり、そのひどい実態が大問題になるなか、青年の願いと勇気ある告発にこたえて、日本共産党志位委員長が今年2月におこなった国会質問をきっかけに、いくつかなの大企業が派遣の解消にむかい、政府も日雇い派遣の原則禁止など派遣法の見直しをいいたさざるをえなくなっています。

「お金の心配なく学びたい」という学生の願いが強まるなか、東京大学に続き、東京学芸大学が学費免除枠の拡充をうちだしました。国際的にみても高すぎる日本の学費の負担軽減をもとめる日本共産党の政策提言は、学生や高校生、幅広い大学関係者から共感をよび、その実現をめざす共同が前進しています。

「紛争がおきて、戦争にしてはならない」という世界の平和の流れにそむいて、アメリカといっしょに海外で

戦争しようという、憲法九条をふみにじる政治もゆきづまっています。イラクに派遣していた自衛隊はついに撤退せざるをえなくなりました。

地球温暖化、世界的な貧困と飢餓、物価高騰をまねいた投機マネーの暴走をまえに、「資本主義はもう限界では？」という模索や関心は、青年のなかにもひろがっています。資本主義のもとで可能な「ルールある経済社会」をつくることをめざすとともに、もうけ最優先の資本主義のあり方そのものを乗り越える、自由で平等な未来社会への展望をもつ日本共産党に、青年から新しい注目がよせられています。

マスメディアが宣伝する「自民か民主か」「政権の選択」で青年の願いが実現できるでしょうか。自民党と民主党は、昨年、いっしょに政権をつくる「大連立」にいったん合意したように、大企業優先、アメリカいいなりという政治の中身では変わりません。2つの党とも、財界に政策の「通信簿」をつけてもらい、企業献金をもらっています。

雇用や学費、平和、地球環境——一人ひとりの青年の願いから出発して、みんなで交流し、学びあえば、その根っこにある大企業優先、アメリカいいなりの政治にぶつかります。ここに正面からいどみ、青年・国民の立場で政治の中身をかえる日本共産党が総選挙で勝利することこそ、青年の願いにこたえて政治を動かすもつとも確かな力です。

■青年との対話・交流を思いきってひろげ、総選挙を元気に楽しく

全国青年大集会の成功へ、残る2週間、すべての班と同盟員が力をつくすとともに、目前に迫った総選挙を青年の願い実現の絶好のチャンスとしてとりくむために、つぎの行動をよびかけます。

① すべての班でアピールを討議し、アンケートで要求・願いを交流し、どうすれば願いを実現できるのか、「党創立記念講演ダイジェストビデオ」や日本共産党の政策を学び、「がんばろう決議」をあげて、みんなで力をあわせましょう。班会議に参加できていない仲間にも声をかけ、アピールを届けて語りあう、交流と学習を最後まで大切にしましょう。そして、演説会やつどいの参加など、すべての同盟員がやれることからとりくみましょう。

② 選挙のときこそ、アンケート対話などで育んできた共感し連帯する力を発揮するときです。一人一人との対話を大切に、そして、一人でも多くの青年に、「あなたが悪いんじゃない。苦しみのおおもとにある政治の中身を変えするため、いっしょに日本共産党を応援しよう」とよびかけましょう。お帰りなさい宣伝、職場や学園での門前宣伝など、全国10万人の青年との対話・交流をやりぬき、日本共産党への支持をひろげましょう。青年とともに、「生きづらさ」のおおもとに何があるのかを学び、日本共産党の姿を知らせ、交流する「若者のつどい」を気軽に楽しくひろきましょう。

③ 集会に参加してくれた青年、宣伝や対話で知りあった青年に加盟をよびかけ、9月、10月で、すべての班が仲間を迎えることに挑戦しましょう。「かえるネットメールニュース」でつながる「日本共産党といっしょに日本をかえるネットワーク」に参加し、日本共産党と力をあわせて「かえるネット」をひろげましょう。

仲間とともに、学び交流し、社会をになう主人公として成長しながら、私たちの現在と未来をかけて、総選挙を元気に楽しくたたかきましょう。